

## 「コピペ」

本田 海太郎

「オリジナルとコピー」、「原作と模写」、「クリエイトとリメイク」、「原作と転用」、「本物と模造品」、「本物とにせもの」。

似たような対比を羅列したが、最初の「オリジナルとコピー」と最後の「本物とにせもの」では、かなり響きやニュアンスが違うように思う。

ものを書くときに、全く黙って原作をコピーをすれば盗用だが、出所を明らかにして原作を使用すれば、引用・転用ということになる。

一方で、本物を黙ってコピーした作品は、盗用・にせものということにもなる。

絵画や書道の世界では、原画・原書を真似ることから学習を始めることが多い。

しかし、文章・論文等は、オリジナリティーが求められることの方が多い。

最近、「コピペ」なる単語が使われているのをご存じだろうか。

知らない方のために解説すると、コピー&ペーストの略だそうで、スマホ用語と言えるのではないか。

つまり、コピーしてペーストする(貼りつける)ことである。

同じことを書くのが面倒で、大変なので、前出の文章・単語等をコピーして貼りつけることができる機能である。

文章も映像も「コピペ」できる。

最近では、まさにコピーが当たり前の文化、当たり前の社会となっている。

STAP 細胞の研究論文も「コピペ」のせいで、信憑性が疑われはじめています。

このため、「細胞の初期化が可能か?」というセンセーショナルともいえる夢がしぼんでしまった感じがする。

小保方さんの大学の卒論も他人の論文の「コピペ」で成り立っている可能性が出てきているようだ。

こういう事実が明らかになると、「虚偽」、「ねつ造」、「詐欺」という忌まわしいゴールも見えてくる。

「虚偽」、「ねつ造」、「詐欺」というと、「盲目の作曲家」佐村河内守氏と同列のレベルの話になりかねない。

非常に残念であるとともに、これらの事例は、「簡単コピー文化について、一度みなさん考え直してみなさい。」、「コピーされる原作者の権利や気持ちについて考えてみなさい。」、「オリジナル作品を創造するのは大変だということを考えてみなさい。」という警句でもあるように思う。